

例会報告

第2636回例会報告議事録

日時 令和3年3月23日（火曜日）

場所 ハート柏迎賓館

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「手に手つないで」

ゲスト：なし

ビジター：なし

S.A.A.: 小池喜之

会長挨拶

村越会長



一昨日の21日で2ヶ月半間続いた緊急事態宣言が一旦解除されましたが、引き続き十分な注意をはらって例会を開催したいと思いますので、ご協力の方をよりしくお願いいたします。

同じく21日に千葉県知事選挙が行われました。大変風変わりな候補者がいっぱい出ていて政見放送を楽しませて頂きましたが、前千葉市長の熊谷さんが140万票という歴代最高得票数で当選されました。市長としてのコロナ対策を評価されたということだと思います。

いつのまにか選抜高校野球が始まっていました。この近くですと専大松戸高校の試合があさって25日にあります。3年前に我孫子市にある中央学院高校の初出場が決まった時にロータリーとして賛助金を差上げたのですが、当日、小池会員と米田会員と今はおやめになっておられる高島会員と私の4人で応援の弾丸ツアーに行きました。その時も25日の9時の試合でした。1回戦で敗退しましたが、懐かしく思い出しました。

この1週間、ロータリーとしての動きはほとんどなかったのですが、この第11グループも本格的に例会を再開したと聞いています。4月になりますと、地区大会ゴルフや第11グループの合同例会、合同親睦ゴルフ等、通常のロータリーの行事が再開できるようになりました。嬉しい限りです。

本日は瀧日会員の卓話です。毎回、有用なお話を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

親睦委員会報告

柳田委員長

3月がお誕生日の堤会員、おめでとうございます。

堤会員より

3月は今まではたくさん誕生日の方がいらっしゃったのですが、今回は1人で小っ恥ずかしかったです。非常に嬉しかったです。ありがとうございます。

3月1日で59歳になりました。サラリーマンにとっては定年が見える年になってしまいましたが、年金をもらえる65歳まではまだまだ働かなければいけないというようなところです。

3月1日にぎっくり腰をしたかと思ったら、腰の端っこを骨折してしまいました。健康にも十分に留意してやっていかないといけないと改めてつくづく思いました。



出席委員会報告

堤会員（代理）



21名（出席免除者含む）出席（全員で32名）出席率65.62%

業務による欠席者：小野会員、木村会員、古谷野会員、佐藤会員、塩毛会員、寺井会員、日暮会員、福武会員、前田会員、湯下会員、依田会員

地区研修協議会について

柳田幹事エレクト



4月25日（日）にアパホテルリゾート東京ベイ幕張で地区研修協議会が開催されます。今回は4名のみ指定で、会長エレクトと次期幹事の私と、奉仕プロジェクトの青少年奉仕部会に倉持会員、ロータリー財団米山に上村会員にお願いしています。地区委員の藤本会員を含めると5名で参加予定です。



4月23日(金)ここハート柏迎賓館にて合同例会が開催されます。

12:00~ 登録

12:30~13:30 合同例会

13:35~15:10 懇親会

内容は合同ゴルフの表彰式等が行われる予定です。ご都合をつけてご参加いただければと思います。よろしくお願いいたします。

卓話

瀧日会員



前回、皆さんの大好きな一万円札のお話をしたのですが、今日は2024年からの一万円札の顔、渋沢栄一のお話をしたいと思います。

渋沢栄一は日本の資本主義の父と言われています。具体的には株式会社制度を日本に取り入れた人です。

明治維新という、いわゆる元勳と呼ばれる大久保利通や伊藤博文、井上馨等の政治の世界の人たちの名前が頭に浮かびます。渋沢栄一はあまり表には出て来ませんでしたが、経済界では日本の基礎を作り上げた人です。今ちょうどNHKの大河ドラマで取り上げられています。

その時代に三大財閥(三菱財閥、三井財閥、安田財閥)ができました。ところが渋沢栄一は財閥は作りませんでした。彼の理念に合いませんでした。

彼が作ったり関わった会社の数は481社です。500くらいの慈善事業にも参加していました。

渋沢栄一が取り入れた資本主義は大変素晴らしい制度でした。

株式会社制度は日本の経済発展にどれだけ大きな効果を表したかわかりませんが、今、いろんな欠陥が出て来ました。アメリカの経済格差です。アメリカの経済格差は日本と比べ物になりません。人口の1%の人間が国の財産の20%を所有しています。アメリカの富裕層は超がつきます。年収200万で生活している人は約1億います。これは完全に資本主義の欠陥です。これが批判の対象になっています。

中国は共産主義ですが、資本主義を取り入れています。中国のイデオロギーと資本主義は相容れないはずですが、証券取引所が中国にはあります。

皆さんが経験したバブルの時に何があったかという資産価値、土地の暴騰でした。坪800万円という値がついている土地がありましたが、転売転売で出来上がった、まさにマネーゲームの結果でした。これが潰れないはずがありません。かなりの数の上場企業の財務部門が、転売すればもうかるということだけでデリバティブというものを買っていました。マネーゲーム以外の何物でもありません。結局、会社が大損をさせました。このために自殺した財務部長もいました。

リーマンショック。これも完全なマネーゲームでした。商品とまらないものが商品として売買されました。それに銀行は融資していました。マネーゲームは資本主義の欠陥以外の何物でもありません。

そういうことで今、資本主義の反省の弁が出ています。

社会貢献をしている会社の株を買いましょう、というような運動も出ています。銀行もそういう会社でないと融資しないということも出ています。資本主義の結果に対する是正の動きが出ています。確かに資本主義には欠陥があります。株式会社制度は素晴らしい点もありますが、これを悪用する人もいます。

今アメリカで上場している会社でハコという会社があります。中身が何もない単なるペーパーカンパニーです。日本にも出始めています。M&Aを目指しています。そのハコにお金を集めてファンドを作り、M&Aをして利益を得ます。私なんか言わせれば、これも資本主義、株式会社制度を利用した、いい方向のものではないと感じます。

こういうのを見ますと、渋沢栄一は資本主義を導入したけれど、資本主義には欠陥があるんじゃないかと肌で感じていたのではないかと思います。そこで彼は論語を持ち出したのです。資本主義の暴走の歯止めとして論語を持ち出したのだと思います。彼は子どもの頃から論語の勉強をしていました。侍等の江戸時代の日本の上流階級は中国の古典を勉強していました。

彼が書いた「論語と算盤(そろばん)」を読んでみました。

渋沢栄一は1840年に埼玉県深谷市で養蚕、藍染めに使う藍玉の生産をやっている豪農の家に生まれました。6歳ごろから論語等を勉強しました。12歳で剣術の稽古を始めました。14、5歳になって父親から言われて畑仕事や、藍を作るための葉っぱを買い入れる仕事も始めました。

(次ページへ続く)

幕末ですから勤皇の思想が流行っていて、渋沢栄一もその考えにとらわれて妙な計画を立てました。高崎城を乗っ取り、横浜を焼き払い、横浜にいる外国人を斬り殺すというような途轍もない計画を立てました。ところがその仲間にいた従兄弟に、そんな無謀な計画は実現しないし、やっただとしても百姓一揆の一つとしか評価されないぞと言われ、結局、思い止まりました。それからが面白いのです。幕府から目をつけられる恐れがあるので、それを逃れるためになんと幕府の家来になりました。幕臣になり、武士になりました。勤皇の志士から幕臣に様変わりしました。

もうひとつ特徴的なのは、一橋家で侍として勤めていた時にフランスで万国博覧会があり、使節団の随員としてフランスに行き、ヨーロッパを1年間見て回りました。この見聞が渋沢栄一の経済人としての基礎を作ったかもしれません。

ヨーロッパを見て回った1年の間に幕府が潰れてしまいました。幕府のバックアップで行っていたので資金もなくなりますし、日本に帰って来ました。その後、明治政府の招聘を受けて大蔵省の役人になりました。ヨーロッパの制度を見てきたので新しい改革をいろいろやりました。全国の測量もやっています。度量衡の改正もしました。藩札の処理もしました。

相当な功績をあげましたが、所詮は幕臣の出でした。大久保利通と対立したこともきっかけになって大蔵省をやめて民間の実業界に転身しました。

退職して、株式会社制度を利用して、資本主義の典型である第一国立銀行を作りました。株主布告というものを出しました。それがちょっと面白いのでご紹介します。銀行の理念を述べています。

「そもそも銀行は大きな川のようなものだ。役に立つことは限りがない。しかしまだ銀行に集まってこない金は、溝にたまっている水や、ぼたぼた垂れているシズクと変わりがない。時には豪商や豪農の蔵の中に隠れていたり、日雇い人夫やお婆さんの懐(ふところ)にひそんでいる。それでは人の役に立たない。国を富ませる働きにはならない。水に流れる力があっても、土手や岡に妨げられていては少しも進むことはできない。ところが銀行を立て上手にその流れに道を開くと、倉や懐にあった金がより集まり、大変多額の資金になる。そのおかげで貿易も繁昌するし、産物もふえるし、工業も発達するし、学問も進歩する。道路も改良されるし、すべての国の状態が生まれ変わったようになる」まさに銀行の原点です。銀行を足がかりにしているろんな会社を作りました。

設立に関わった会社は王子製紙、東京海上保険、日本郵政、東京電力、東京ガス、帝国ホテル、J R、サッポロビール等、481社です。

組織としては日本商工会議所、日本証券取引所に彼が関与しています。この間に三菱、三井、安田が財閥になっていますが、渋沢栄一は財閥を作らなかった。

公益事業にも関わっていて、日本赤十字社、聖路加国際病院等。

大学では一橋大学、私の母校の早稲田大学、同志社大学、日本女子大等の創立にも関与しています。

まさに日本の資本主義や社会的な基盤を作り上げた人でした。一時はノーベル平和賞の候補にもあがりました。

「論語と算盤(そろばん)」の中のちょっと面白い部分を少し紹介します。

論語では「高い道徳を持った人間は、自分が立ちたいと思ったら、まず他人を立たせてやり、自分が手に入れたと思ったら、まず人に得させてやる」という言葉があるのですが、これを受けて渋沢栄一は「いかに自分が苦勞して築いた富だといったところで、その富が自分1人のものだと思うのは大きな間違いだ。人はひとりでは何もできない存在だ。国家社会の助けがあって初めて自分でも利益が上げられ、安全に生きていくことができる。もし国家社会がなかったら誰も満足にこの世の中で生きていくことはできない。富を手に入ればするほど、社会の恩恵にお返しをするという意味で、貧しい人を救うための事業に乗り出すのは当然の義務だ。できる限り社会のために手助けをしていかなければいけない」と言っています。

これはロータリーの職業奉仕とぴったり一致しています。これを100年前に言っているのです。素晴らしいですね。

「ものの豊かさとは大きな欲望を抱いて経済活動を行ってやろうというくらいの気概がなければ進展していかない。空虚な理論に走ったり、中身の無い繁栄をよしとするような国民では、本当の成長とは無関係だ。実業とは多くの人にもものが行き渡るようにする生業だ。これが完全でないと国の富は形にならない。国の富をなす根源は何かと言えば社会の基本的な道徳を基盤とした正しい通常の富だ。そうでなければその富は完全に永存することはない」

渋沢栄一は実業界に入る時に、自分のいろいろな判断を律するものとして論語を考え、それを自分のバックボーンにしたのだと思います。

最後に彼の私生活について少しお話ししたいと思います。

彼の最初の奥さんは近所の千代さんという女性でしたが、残念なことに43歳で亡くなりました。その後、後妻をもらい四男三女をもうけました。これだけではありません。お妾さんが8人いたそうで、

子供が30人いたそうです。しかも一番最後の子どもは80を過ぎてからです。

彼は晩年に言っています。「ご婦人関係以外に関しては、自分は自分の一生を省みて全く恥ずることはない」

1931年に91歳で直腸癌で亡くなっています。

ありがとうございました。

閉会の言葉

村越会長

瀧日会員、いつも素敵なお話ありがとうございました。

今月は来週また例会があります。楽しみにしております。

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
村越会長	瀧日会員 卓話ありがとうございました。	2,000円
荒井会員	瀧日会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
石原会員	卓話ありがとうございました。	1,000円
梶会員	瀧日さん卓話ありがとうございました。	1,000円
上村英生会員	瀧日会員 卓話ありがとうございます。	1,000円
小池会員	瀧日会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
関根会員	瀧日会員 卓話ありがとうございます。	1,000円
瀧日会員	卓話をさせて頂きました。	2,000円
堤会員	瀧日会員 卓話ありがとうございました。 又、誕生日のお祝とてもうれしかったです。 ありがとうございました。	2,000円
服部会員	瀧日先生 卓話ためになりました。	1,000円
藤本会員	瀧日先生 本日も卓話を頂きありがとうございました。	1,000円
米田会員	瀧日会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
	当日計	15,000円
	今期累計	412,000円

今週の表紙「柴崎神社」千葉県我孫子市柴崎737番地

日本武尊（ヤマトタケル）が、東国討伐の征途の安全と武運長久を祈願し幣を立て、天慶元年（938年）に創建されたと伝えられています。また、平将門もこの神社で武運を祈願したそうです。

古くは妙見社と呼ばれ、明治元年に北星社となり、明治13年に芝崎神社と改称されました。

階段を上ると静かな境内があり、参道脇には妙見菩薩の神使、亀（玄武）が並んでいます。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。